

2025年に向けた対応方針変更箇所(日野原記念ピースハウス病院)

参考資料 1

	新 (R6作成)	旧 (R1作成)
自院の特徴、得意分野、特筆すべき事項等	日本初の独立型ホスピスとして、日本のホスピス緩和ケアの発展に尽力してきた。ホスピス教育研究所を併設しており啓発・教育事業実績がある。今後は <u>終末期だけでなく、病気の早期からの緩和ケアの提供を推進していく。</u>	日本初の独立型ホスピスとして、日本のホスピス緩和ケアの発展に尽力してきた。ホスピス教育研究所を併設しており啓発・教育事業実績がある。今後は <u>がん・エイズのみならず、誰もが平等に受けられる緩和ケアの提供を推進していく。</u>
課題等	①建物の老朽化 ②緩和ケア外来、在宅療養支援病院としての活動を推進し、22床の病床の有効活用	建物の老朽化および病床数22床と神奈川県西地域の唯一の終末期医療を支えるには限界の規模である。
今後地域で担う役割等	地域包括ケアシステムの中で、 <u>専門的緩和ケアを提供する病院として保健・医療・介護・福祉への貢献</u>	地域包括ケアシステムの中で、 <u>拠点となる保健・医療・介護・福祉への貢献</u>
その他・自由記載欄	緩和ケア外来の利用率上昇に向けての活動 在宅療養支援病院としての取組	緩和ケア外来の利用率上昇に向けての活動 <u>がん相談事業（がん患者カウンセリング加算・算定）の整備</u>
主な受入元 (医療機関・施設名)	東海大学医学部附属病院、小田原市立病院、平塚市民病院、神奈川県立足柄上病院、国立病院療養機構神奈川病院、平塚共済病院、秦野赤十字病院、神奈川県立がんセンター	東海大学医学部附属病院、小田原市立病院、 <u>東海大学附属大磯病院</u> 、平塚市民病院、神奈川県足柄上病院、国立病院療養機構神奈川病院、平塚共済病院、秦野赤十字病院、神奈川県立がんセンター
特に力を入れている疾患等	<u>がんなど悪性腫瘍患者への緩和ケア</u>	<u>がんにおける疼痛などの緩和ケア</u>
入院不可・対応不可の疾患等	非がん患者 <u>(現在、緩和ケア病棟施設基準の対象外のため)</u>	非がん患者
連携に関する要望や課題認識等	在宅療養支援診療所との前方・後方連携体制の構築 居宅介護施設等との連携強化	在宅支援診療所との前方・後方連携体制の構築 居宅介護施設等との連携強化